資料５　研究計画書

研　究　計　画　書

研究題目　「GRIP プログラムの教育評価に関する研究」

研究者　酒井郁子

共同研究者：　井出成美、石橋みゆき、飯田貴映子、野崎章子、ｶｽﾞﾉﾌﾞ ﾀﾞﾋﾞｯﾄﾞ、仲井あや、関根祐子、石川雅之 、伊藤彰一、山内かづ代、鋪野紀好、笠井　大、岩崎　寛、中口俊哉、朝比奈真由美、中村絵里、臼井いづみ 、孫佳茹、天井響子

Ⅰ　研究の必要性及びその背景

千葉大学は2007年から、日本初となる医療系学部を横断した「専門職連携教育プログラム−亥鼻IPE」を必修科目として推進してきた。また、2020年度からは全入学生を対象とするENGINEプランを開始し、「全員留学」を実施している。グローバル地域ケアIPEプラス（Global & Regional Interprofessional Education Plus Program GRIP、以降GRIPと表記）は、15年間実施してきた専門職連携教育を全学に発展させ、また日本以外の国や地域の課題にも対応できる専門職業人材を育成することを目指した新たな留学プログラムである。GRIPでは、「地域特有の健康課題」に対して、専門領域の異なる学生がインター・プロフェッショナル且つインター・ナショナルに協働して取り組み解決方策を提案する。地域対応型の人材を、専門を跨いだサービス・ラーニングにより育成する。

本研究は、このGRIPプログラムの教育評価を量的および質的に分析し、プログラムの学習効果を高める要因と教育方法の改善点を明確にすることを目的とする。具体的には、2022年度から2026年度までの千葉大学および海外連携大学のGRIP参加学生を対象とした、①専門職連携能力、社会課題解決能力、文化的対応能力及び文化的謙虚さの変化を評価するためのプログラム参加前後の質問紙調査、②変化の個人差や共通要因を質的に分析するためのインタビュー調査を実施する。

持続可能な社会を創生するため2015年に採択された「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」では、環境や平和の維持という全世界的な課題から、災害や貧困、医療資源へのアクセスという国や地域特有の課題まで多様な社会課題が対象とされている。これらの課題解決のためには、まさに多様な職種間の連携協働および国際的な比較と考察、資源を創造する柔軟な発想が必要とされる。そのためGRIPは、どの国や地域の社会課題に対しても他の専門職とともに取り組み、文化的対応能力及び文化的謙虚さを基盤として、現場での最適解を導き出すことができる自律した組織人の養成を目指している。しかし、インター・プロフェッショナル且つインター・ナショナルに協働して社会課題を解決できる人材のコンピテンシーとして挙げられる専門職連携能力、社会課題解決能力、文化的対応能力及び文化的謙虚さの包括的な育成を図った留学プログラムは非常に稀有であり、その評価研究も未だ国内外を通して実施されていない。よって、GRIPプログラムの教育効果、並びにプログラムとしての改善点を定性的、定量的、且つ縦断的に検討することの社会的意義は大きいと考えられる。

なお、本研究は対象をGRIPプログラムの参加学生に限定しているが、千葉大学では既にその他の留学プログラムやオンラインプログラムの参加学生に対して、後述するシステムBEVIを利用して文化的対応力および文化的謙虚さの評価に取り組んでおり、BEVIのスコアについて他プログラムとGRIPの比較という形で検討を行うことでGRIPのみならず他プログラムの評価や改善に貢献できる可能性がある。留学プログラム参加学生に対するBEVIの利用は既に千葉大学大学院医学研究院倫理審査委員会の承認を受け行われている。

Ⅱ　研究目的

GRIPプログラムの教育評価を量的および質的に分析し、プログラムの学習効果を高める要因と教育方法の改善点を明確にすることを目的とする。

本研究は、参加者のコンピテンシーの変化の測定と、その変化の要因となった学習内容や経験の構造化の二側面から構成される。まず、研究１は、GRIP参加者の専門職連携能力、社会課題解決能力、文化的対応能力及び文化的謙虚さをプログラムの前後により測定し、定量的に学習効果を評価する質問紙調査である。次に研究２は、プログラム終了後に個別に実施するインタビュー調査である。参加前の自己の状態、参加中の経験、そして現在の自己の状態を回顧的に語ってもらい、変化の要因となった学習内容や経験、それらと個人差の関連、学習効果をより高めるためのプログラムとしての改善点を定性的に評価する。

これらの定量的および定性的調査を千葉大学の学生と提携大学の学生に対して継続して実施し、プログラムの評価、改善、並びに学内外への波及を目指す。

Ⅲ 評価対象となる学習プログラムの概要

GRIPはオンラインによる事前学習、現地演習、メタバース上で実施する成果発表会の三段階から成る。参加学生は事前学習の開始前と成果発表会の終了後に質問紙への回答を求められる。個別インタビューは成果発表会終了後に実施する。

1. 事前学習

(1) 学習目標

① 演習の計画・準備；演習の目標を共有する。

② 自国の保健・医療・社会経済文化・制度等について概要を理解する。

③ 地域アセスメント方法について理解する。

④ 文化的能力・文化的謙虚さについて理解する。

⑤ 健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health: SDH）について相対的に把握する。

(2) 方法

オンライン学習（対面を含むハイブリッド型）、オンラインテスト

(3) 内容

専門職連携基礎、専門職連携実践１、専門職連携実践２、Cultural Competency and Cultural Humility、社会課題解決基礎、社会課題解決応用の６科目を通して、知識構築と参加学生同士のチームビルディングやシミュレーション学習を行う。

2. 現地演習

(1) 学習目標

① フィールドにて多様な文化的・学際的背景をもつ学生が協働して、地域の問題解決に取り組む。

② チームとしての対立の対処法と、専門家間の関係を発展方法を学ぶ。

③ 他の専門職がリソースとなり、自身の実践の補完となることを学ぶ。

④ 他の専門職への理解を深める。

⑤ 地区踏査等によってアセスメントおよび課題を明確化する。

(2) 方法

実渡航を伴う現地施設やコミュニティ、プログラムの見学、参加、運営

(3) 内容

渡航先の対象地域において、以下のテーマでの社会課題解決演習を行う

（例）災害被災者の健康、医療資源へのアクセシビリテイ、認知症者とともに作る介護、パンデミックと文化、ホームレスネスと社会

3. 成果発表会

(1) 学習目標

① 学習成果の具現化を行う。

② 自身の研究や実践に対する実装準備を行う。または実装する。

③ 自他国への移転可能性を検討する。

④ 自身の専門家としての活動へ知識と経験を活用する。

(2) 方法

メタバースプラットフォームを用いたリアルタイムな成果発表会

(3) 内容

・グループプレゼンテーションの実施

・各大学教員からのフィードバック受容およびそれを受けたプレゼンテーションの改善

・社会課題解決ケースシナリオの提出（最終課題）

Ⅳ 研究方法

研究 1:「GRIPプログラムによる学習効果の定量的評価」質問紙調査

(1) 対象

2022年度のGRIPプログラム参加学生のうち、後述する研究手続きと倫理的配慮に則った説明を受け、研究協力に同意した学生。上述の参加学生には、千葉大学から派遣する学生のほか、GRIPプログラムを通じて協定校から千葉大学が受け入れる学生も含む。

(2) 期間

倫理審査承認後から2023年9月末日までを研究期間とする。

(3) データ収集

Google Spaceをプラットフォームとし、オンラインの質問紙調査を実施する。GRIPプログラム参加学生へ、プログラム開始前、現地演習終了後、成果発表終了後の最大3回、質問紙への回答依頼を送信する。Google Space上に研究協力依頼(資料1・2)および誓約書(資料3)を掲示し、学生が同意した場合に以下の内容に対応した回答画面に進む。測定項目は資料9の通りである。

a. 専門職連携能力

Interprofessional Socialization and Valuing Scale (ISVS-21) (King et al.、 2016) 21項目

b. 社会問題解決能力

Social Problem-Solving Inventory-Revised (SPSI-R) (D'Zurilla et al.、 1998) 52項目

c. Cultural competencyを含む信念および世界観

BEVI (Shealy、 2016) 185項目

尺度a～cは国内外で広く使われており、本研究の申請者はこの尺度の背景にある概念や理論についてよく理解した上で使用する。尺度cは千葉大学として使用ライセンス契約をしている。いずれも著作権侵害の恐れがない。また、英語力による選別を突破した学生が参加することと全ての学習活動を英語で実施するというGRIPプログラムの特性上、尺度への回答も基本的には英語で実施予定であるが、尺度bおよび尺度cは項目数が多いことと両尺度とも妥当性と信頼性が確認された日本語版が開発されていることから、回答者の負担軽減のため日本語による回答も選択可能とする。

(4) 分析

回収されたデータは匿名化・符号化の上で回答者ごとに紐づけし、プログラム開始前から終了後の値の変化を成長曲線モデルで分析する。加えて、分散分析により、千葉大学の学生と協定校の学生の比較、あるいは、千葉大学内でGRIPと同時期に実施された他の渡航を伴う留学プログラムやオンライン留学プログラムとの効果比較を行う予定である。

研究 2:「GRIPプログラムを通した学習体験の構造化」インタビュー調査

(1) 対象

2022年度のGRIPプログラム参加学生のうち、後述する研究手続きと倫理的配慮に則った説明を受け、研究協力に同意した学生。上述の参加学生には、千葉大学から派遣する学生のほか、GRIPプログラムを通じて協定校から千葉大学が受け入れる学生も含む。

(2) 期間

倫理審査承認後から2023年9月末日までを研究期間とする。

(3) データ収集

GRIPプログラムにかかわる全ての活動終了後、Google Space上に研究協力依頼(資料4・5)および誓約書(資料6)を掲示し、研究手続きや倫理的配慮、協力の有無により不利益を被らないこと等についての説明の上で協力学生を募集する。研究協力に同意する学生にのみ同意書(資料7)をGoogle Space上で提出してもらう。インタビューはインタビューガイド(資料8)に則った半構造化インタビューとする。個別にzoomで実施し、同意を得た上で音声記録を取る。

(4) 分析

音声記録は直ちに匿名化・逐語化し、複線径路・等至性モデル（Trajectory Equifinality Model：TEM）を参考に参加者の体験と学習の経時的な整理と構造化を行う。

Ⅴ 倫理的配慮

1. 研究許可・承諾を得る手続きにおける任意性の保障

(1)研究対象者関連施設（研究対象者の所属・利用等による関連施設。研究協力機関も含む。）への質問紙やインタビュー等の協力を得るための手続き

千葉大学：

・本研究には2022年度のGRIPプログラムに参加予定の看護・薬・医学部、看護学研究科、医学薬学府、国際教養学部の学生が対象者として含まれる可能性がある。GRIPは全学を対象としたプログラムであり、目的、概要、教育効果検証の必要性等、事業に関する説明および協力要請は既に千葉大学全体で行われている。

・上記に加え、看護学研究科では、所属学生を対象としたインタビュー調査を実施する際に倫理審査とは別途学生支援委員会にて研究計画およびインタビューガイドの確認を受ける必要がある。本研究は倫理審査終了後速やかに規定の確認を受ける予定である。

・看護学研究科以外の関連する他学部および研究科に確認したところ、本研究について倫理審査とは別に上述のような審査を受ける必要性はないことが確認された。

協定校：

・GRIPプログラムが「大学の世界展開力強化事業」として申請および採択されるにあたって、学生の派遣、受け入れ、それらの前後の教育、並びに教育効果の検証についての協力関係が既に構築されている。

・研究の計画および実施に際しても協定校の研究責任者と連携し、双方の学生に対し十分な倫理的配慮がなされるよう留意する。

(2)研究対象者の承諾を得る手続き

研究１：質問紙調査

・ 対象者に対しGoogle Space を通じて研究協力依頼書(資料１・2)を提示する。任意性の保障などの説明を徹底し、強制力が行使されない配慮を行う。

・ 研究協力は対象者の自発的意志に基づくもので、常時協力中止の申し出が可能であり、中止の申し出により不当な扱いを受けないことを研究協力依頼書で説明する。

・ 調査協力の撤回は自由であることを研究協力依頼書に記載する。

・ 研究参加の協力・非協力に関わらず、それによる不利益が生じないことを、研究協力依頼書を用いて十分に説明を行う。

・ 研究協力依頼書を読み、理解の上、協力に同意してもらえる場合のみ、調査票(資料9)へ回答をもとめる。また、調査票への回答および送信を以って、この研究に同意すると判断する。同意しない場合、調査票への回答は不要とする。

研究２：インタビュー調査

・ インタビューの実施に関する研究協力依頼(資料４・5)は、成績評価に関わらない研究者(以下「特任教員」とする)が行う。

・ 研究説明のはじめに、研究協力は対象者の自発的意志に基づくもので、常時協力中止の申し出が可能であり、中止の申し出により不当な扱いを受けないことを研究協力依頼書で説明する。

・ 研究協力の同意は文書で回答し、Google Space上に提出する(資料 7)。

・ インタビュー開始直前にも倫理的配慮等の口頭説明と協力意志の確認を行う。また、インタビュー中および終了後も協力の撤回は自由であることを伝える。

・ 研究を公表するときに、研究協力への意志を再確認する。

2. 研究実施における安全性・負担の軽減の保障

(1)申請者の研究遂行能力の担保・研究への準備状況

申請者および共同研究者は、質的研究および量的研究に関する豊富な経験および業績を有している。また、研究メンバー間で合意形成を行いながら研究計画を立案し、研究の実現可能性は保証されている。さらに、データ分析は研究経験者複数名により実施し、分析プロセスにおいては研究者間での討議を十分に行うことでデータの信頼性・妥当性を確保する。

(2)研究協力に伴う不利益やリスクに対する対応(身体的・精神的・社会経済的・時間的負担等に対する配慮も含む)

研究 1:質問紙調査

・研究協力依頼は、各学部の状況に合わせて研究協力者の負担の少ない時期を選んで行う。例として、医学部や看護学部の国家試験前、教育学部の教員採用試験前や、実習の時期にはデータ収集を実施しない。

研究 2:インタビュー調査

・インタビューの実施日は、学生に予定を確認し、学生の都合(希望)に合わせて設定する。

・インタビューに対する抵抗感や拒否感を最小限にするために、インタビューは特任教員が担当する。インタビューは協力者の利便性やプライバシーを確保するためzoomで個別に実施する。

・インタビュー内容の録音についての諾否を確認し、承諾しない場合は録音を行わない。

・インタビューにより不快感が発生しないよう、インタビュー実施者はその場の状況や研究協力者の様子に敏感になり、研究協力者の精神的負担が推測される場合は、データ消去や途中終了等を躊躇せず行う。

・インタビュー実施後も、研究協力者から話した内容の一部分については使わないで欲しいというような申し出があった場合には、インタビュー実施後6か月以内であれば、データ消去や途中終了など躊躇せず行う。それ以後の場合、消去の希望に応じかねる旨を依頼書に明記し、予め研究協力者に伝えておく。

3. データ収集から公表におけるプライバシー・匿名性・個人情報の保護

(1)データ収集時の配慮

研究 1・研究 2ともに、個人を特定し得るデータは記号化する。万が一散逸した場合にも個人が特定されないように氏名および所属学部の固有名詞は使わない形でデータを保存する。

研究 2：インタビュー調査の場合、さらにインタビュー直前に個人情報保護の注意を喚起し、もしそこに参加していない個人が特定される発言があったときにはその時に記録や録音を停止し、削除する。

(2)データ分析における配慮

研究 1・研究 2 ともに、研究協力の諾否および、ID 化前の個人が特定されるデータについて成績評価担当者にはアクセスさせない。そのため特任教員をデータ管理者とし、ID 化・テキストファイル化の作業を統括し、データアクセスの可否を判断する。

(3)研究資料の管理方法

以下、研究 1・研究 2 ともに採用する管理方法である。

・本研究は複数の研究者による共同研究のため、以下に示すデータ収集、管理、処理方法を研究者間で合意し、倫理的配慮で明文化した具体的ルールを遵守する。

・本研究の参加者が学生であり、授業担当教員が中心メンバーの研究活動となるため、強制力を極力回避するため、データ保管者を決め、徹底する。こうすることにより、研究対象者の不利益を阻止する。成績評価担当者は、データ収集・保管には原則的に関わらないこととする。

・データ保存は研究成果発表後 10年間を原則とする。管理責任者は特任教員とする。管理責任者は特任教員が異動する際は、次期データ管理者を選定し引継ぐものとする。

・成績評価にかかわらない特任教員の中からデータ管理者 1 名を決め、データは電子媒体および紙媒体に保管し、そのデータの保管は鍵のかかるキャビネット内とし、施錠開錠と鍵管理を確実に行う。

・データは紙媒体および電子媒体ともにコピーは必要最低限とし、データ管理者がデータアクセスの承認・非承認を決し、承認された場合はコピーの日時、部数、承認を受けた者の名前を記録に残す。データを預かった共同研究者は各自、専用のデータ収納ボックスを準備し、施錠管理を行う。

上記のほか、研究 2 はさらに以下のことを配慮する。

・録音した電子データおよび逐語録は、データ期間保存終了後に復元不可能な状態にして処分する。

・インタビューにおいて、他の参加者の人権侵害(個人情報の漏洩や名誉毀損)にかかわる可能性が認められたときは即座にインタビューを中断し、可能性がある部分の記録を廃棄する。

(4)研究成果公表及び対象への還元の方法とその際の配慮

・研究 1・研究 2はいずれも研究を公表する予定があること、またその際は個人が特定できないよう十分配慮することを研究協力依頼書の中に記載する。

・研究データの公表に際して、すべての個人が特定できないよう改めて点検する。

・研究 2 は研究公表について事前に研究協力者へ確認した上でGRIPの HP にて周知する。

資料 1

令和　年　　月　　日

年度GRIP参加学生の皆様

「GRIPプログラムの教育評価に関する研究」

＜研究1 質問紙調査＞へのご協力のお願い

千葉大学は、令和４年度から、国や地域、また文化や専門性の違いを超えて社会課題の解決に貢献できる人材の育成を目指し「グローバル地域ケアIPEプラス（Global & Regional Interprofessional Education Plus Program GRIP、以降GRIPと表記）」を開始しました。

この亥鼻 GRIPプログラムについて、教育効果を明らかにすると同時に、さらに効果的なプログラム構築のための基礎資料を得ることを目的に教育評価研究を行います。

研究内容につきましては、研究計画書および研究を行うにあたっての研究者の遵守事項(次頁以降)をご覧ください。なお、本研究は千葉大学大学院看護学研究院倫理審査委員会にて承認を受けております。ご不明な点などございましたら、お手数ではございますが、下記のお問合せ先へご連絡ください。

当研究の意義をご理解いただき、なにとぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

研究者: 酒井郁子、井出成美、石橋みゆき、飯田貴映子、野崎章子、ｶｽﾞﾉﾌﾞ ﾀﾞﾋﾞｯﾄﾞ、仲井あや、関根祐子、伊藤素行、石川雅之 、伊藤彰一、笠井　大、岩崎　寛、中口俊哉、朝比奈真由美、中村絵里、臼井いづみ 、孫佳茹、天井響子

問い合わせ先　千葉大学看護学研究院附属専門職連携教育研究センターGRIP推進室
センター長 酒井郁子

〒260-8672　千葉市中央区亥鼻 1-8-1
TEL　043-226-2614
FAX　043-226-2614
e-mail　inohana-ipe@office.chiba-u.jp

次ページ以降をご覧ください

資料 2

令和　年　月　日

「GRIPプログラムの教育評価に関する研究」

＜研究1 質問紙調査＞に関する研究協力のお願い

この文書は、研究の目的および研究活動全体において、私たち研究グループが、研究協力者の皆様に不利益がないように努める遵守事項について記載しております。

以下の項目をお読みいただき、本研究の趣旨をご理解・ご同意いただきました上で、研究へのご協力をいただきたくお願い申し上げます。

研究への協力にご同意いただける場合のみ、Google Spaceから調査票にご回答ください。

記

本研究は下記の目的で行うものです。研究の趣旨をご理解の上、何卒ご協力をお願い致します。

1. 研究の目的

本研究の目的は、GRIPプログラムの学習効果を評価するとともに、プログラムの有用性を検証し、より教育効果の高いプログラムに改善するための基礎的データを得ることです。

2. 研究方法・期間

1)調査内容

GRIPプログラムに参加した学生ご自身の専門職連携能力、社会課題解決能力、Cultural Competencyの主観的な評価の変化を検討します。

2)調査方法

Google Spaceを通したオンラインの質問紙調査です。回答は全部で30分程度と予想されます。

（1） Google Space上に掲示された研究協力依頼書をお読みいただき、ご協力いただける場合は Google Spaceから「同意して回答を始める」をクリックの上で調査票へご回答ください。

（2） ご回答が終わりましたら、送信ボタンを押してください。

3)日時

学生への協力依頼は、各学部の状況に合わせて学生の負担のない時期を選んで、Google Spaceを通じて行うように配慮します。例として、医学部や看護学部の国家試験、教育学部の教員採用試験等に影響しうる時期や実習時期には調査を実施致しません。

3. 個人情報の保護について

データは、研究者が厳重に保管し、データ保管期間終了後に責任をもって破棄致します。ご回答いただいた内容は、本研究においてのみ使用し、他の研究に用いることはありません。また研究成果を公表する際にも施設や個人が特定される形では公表しないことをお約束いたします。この研究の期間中および終了後でも、この研究に関する質問がありましたら、いつでも文末の問い合わせ先にお問い合わせください。

4. 研究協力に伴う不利益やリスクについて

研究への協力・非協力にかかわらず、学生は一切の不利益を被りません。学生への強制力を回避するため、GRIPの授業担当教員は、データ収集・保管には原則的に関わらないこととします。また、特任教員をデータ管理者とし、ID 化・テキストファイル化の作業を統括し、データアクセス者を制限します。

5. 研究に要する費用

研究にご協力いただけることでの謝礼はございません。この研究にかかる費用について、貴施設の直接の経済的負担は一切ありません。研究に必要な費用は、研究者がすべて負担致します。

6. 研究計画等の開示

ご希望があれば、いつでもこの研究の研究計画の内容をご参照していただくことができます。

7. 研究への協力の拒否権について

この研究への協力はお断りになることができます。また、一旦同意した場合であっても、いつでも途中でやめることができます。

学生においても、研究協力は自発的意志に基づくもので、常時協力中止の申し出が可能です。回答時に中止の申し出により不当な扱いを受けないことをお約束致します。

8. 研究データの利用について

この研究のために提出いただきました調査の内容は、本研究においてのみ使用し、他の研究に用いることはありません。

9. 研究結果の報告

研究の進捗状況やその成果、学術的な意義については、ご希望に応じ、分かりやすい形で説明致します。研究成果を公表する際には、公表前にデータの共有と公表内容の合意を得て行います。個人が特定される形では公表しませんし、できる限りの配慮を致します。

10. 研究中・終了後の対応

　この研究の期間中および終了後でも、この研究に関する質問がありましたら、いつでも下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

問い合わせ先
看護学研究院専門職連携教育研究センター GRIP推進室　センター長 酒井郁子
〒260-8670　千葉市中央区亥鼻 1-8-1
TEL/FAX　043-226-2614　inohana-ipe@office.chiba-u.jp

資料３

「GRIP プログラムの教育評価に関する研究」

研究協力に関する誓約書

<研究１　質問紙調査>

****

私は、研究活動全体において別紙でご説明したことを遵守し、データ提供者のプライバシーを守り、これを研究以外に使用しないことを約束します。また、研究論文に個人を特定しうるような方法による論述や公表を行わないことを約束します。

研究者名＿＿＿＿＿＿酒　井　郁　子＿＿＿＿＿＿

資料 4

令和　年　月　日

年度GRIP参加学生の皆様

「GRIPプログラムの教育評価に関する研究」

＜研究2 インタビュー調査＞に関する研究協力のお願い

千葉大学は、令和４年度から、国や地域、また文化や専門性の違いを超えて社会課題の解決に貢献できる人材の育成を目指し「グローバル地域ケアIPEプラス（Global & Regional Interprofessional Education Plus Program GRIP、以降GRIPと表記）」を開始しました。

この亥鼻 GRIPプログラムについて、教育効果を明らかにすると同時に、さらに効果的なプログラム構築のための基礎資料を得ることを目的に教育評価研究を行います。

研究内容につきましては、研究計画書および研究を行うにあたっての研究者の遵守事項(次頁以降)をご覧ください。なお、本研究は千葉大学大学院看護学研究院倫理審査委員会にて承認を受けております。ご不明な点などございましたら、お手数ではございますが、下記のお問合せ先へご連絡ください。

当研究の意義をご理解いただき、なにとぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

研究者: 酒井郁子、井出成美、石橋みゆき、飯田貴映子、野崎章子、ｶｽﾞﾉﾌﾞ ﾀﾞﾋﾞｯﾄﾞ、仲井あや、関根祐子、伊藤素行、石川雅之 、伊藤彰一、笠井　大、岩崎　寛、中口俊哉、朝比奈真由美、中村絵里、臼井いづみ 、孫佳茹、天井響子

問い合わせ先　千葉大学看護学研究院附属専門職連携教育研究センターGRIP推進室
センター長 酒井郁子

〒260-8672　千葉市中央区亥鼻 1-8-1
TEL　043-226-2614
FAX　043-226-2614
e-mail　inohana-ipe@office.chiba-u.jp

次ページ以降をご覧ください

資料５

「GRIPプログラムの教育評価に関する研究」

＜研究2 インタビュー調査＞に関する研究協力のお願い

この文書は、研究の目的および研究活動全体において、私たち研究グループが、研究協力者の皆様に不利益がないように努める遵守事項について記載しております。ぜひ、下記の内容をご理解の上、研究へのご協力をいただけますようお願い申し上げます。

以下の項目をお読みいただき、研究に協力することにご同意いただける場合は、同意書に記入の上、Google Space上に提出してください。

記

1　研究の目的

本研究の目的は、GRIPプログラムの学習効果を評価するとともに、プログラムの有用性を検証し、より教育効果の高いプログラムに改善するための基礎的データを得ることです。

2　研究方法

Zoomを利用したオンライン個別インタビュー調査

研究協力に同意の得られた皆様には、今回のGRIPでの学習の体験について、インタビュー調査をします。実施日はご都合に合わせて個別に決定します。インタビューの内容は、研究協力者に可否を確認したうえで、IC レコーダーにて録音します。インタビューの時間は、30分から最大で1 時間ほどです。終了後に謝礼としてアマゾンギフトカード3,000円分をメールアドレスにお送りします。

3 調査の手順および特記事項

1)研究に同意していただける方には研究協力への同意書に署名し、Google Space上の提出場所へ提出していただきます。

2)インタビュー内容は、GRIPでのご自身の経験や考えです。

3)インタビューは、研究協力者と日程調整のうえ、原則としてzoomで個別に実施します。

4)もしインタビューおよびその回答内容において、倫理的配慮が損なわれていると調査者が認めた場合(例えば、他者の尊厳を脅かす発言や患者・利用者、学生の個人情報の漏えい等)は、その場で中断し録音データを消去いたします。

5)研究への同意後だけでなく、インタビュー実施後も、話した内容の一部分について使わないで欲しいというような申し出があった場合には、インタビュー実施後6か月以内であれば、研究協力者の希望により、データ消去や途中終了など躊躇せず行います。それ以後の場合、研究が分析終了後といった消去が不可能な段階に入る可能性があるため、消去へのご希望に応じかねますことをご了承ください。

4　倫理的配慮

①研究協力に伴う不利益やリスクに対する対応

・研究協力の諾否によって、学生は、いかなる不利益も被ることはありません。

・成績評価に関与しない立場の教員を実施者およびデータ管理者とします。

・インタビューは、GRIP担当教員のうち、成績評価を担当せず、且つインタビュー調査の経験が豊富な特任教員

が行います。インタビューへの協力の有無を授業担当教員に伝えることもありません。
・インタビューにより不快感が発生しないよう、インタビュアーは、研究協力者の回答内容をよく聞き、インタビューの間に、不快感の有無や研究協力続行の意志を確認するようにします。
・インタビュー中に研究協力者の精神的負担が推測される場合にいは、データ消去や途中終了等を躊躇せず行います。
・研究協力者がインタビュー内容の録音を承諾しない場合は録音を行わず、インタビュアーが内容を筆記致します。
②研究遂行能力
・インタビューは、インタビュー調査経験を充分に持つ研究者(特任教員)2 名によって行われます。
③問い合わせ等の方法と対応
・ 教員の問い合わせ先
千葉大学看護学研究院附属専門職連携教育研究センターGRIP推進室　センター長 酒井郁子
〒260-8672　　千葉市中央区亥鼻 1-8-1
TEL043-226-2614 FAX043-226-2614　　e-mail inohana-ipe@office.chiba-u.jp
④ 研究協力の同意をいただく方法と途中辞退の保障
・ 研究協力の同意は所定の書式に記入し、Google Space上に提出してください。
・ 研究協力は学生の自発的意志に基づくもので、同意書を提出した後、またインタビュー実施後も、常時協力中止の申し出が可能です。また、中止の申し出により不当な扱いを受けることはありません。
・ 同意書を提出後、協力中止を申し出たい場合は、上記③に連絡をしてください。電話・FAX・メールどのような方法でも構いません。
・ インタビューは、開始直前に改めて意志確認を行います。協力の撤回は自由です。
⑤プライバシー・匿名性・個人情報の保護および人権侵害の回避
・ 個人を特定し得るデータは記号化することで、万が一散逸した場合にも、個人が特定されないように氏名および所属学部の固有名詞は使いません。
・ データ管理者 1 名(特任教員)を決め、データの保管と管理を確実に行います。
・ 研究データの公表に関しては、すべての個人が特定できないよう、改めて点検します。
・ インタビューに先立ち、個人情報保護の注意を喚起し、もしそこに参加していない個人が特定される発言があったとき、人権侵害に関わる内容があった場合には、その時に記録や録音を停止し、削除します。
・ 録音した電子データおよび逐語録は、データ保存期間(研究成果発表後10年間)終了後に復元不可能な状態にして処分します。
⑥研究成果公表及び対象への還元の方法とその際の配慮
・ 研究データの公表に関しては、すべての個人が特定できないよう改めて点検致します。
・ 研究公表については、事前にメールにて協力者に確認の上GRIPのHPにて周知致します。

資料 6

「GRIP プログラムの教育評価に関する研究」

研究協力に関する誓約書

<研究２ インタビュー調査>

****

私は、研究活動全体において別紙でご説明したことを遵守し、データ提供者のプライバシーを守り、これを研究以外に使用しないことを約束します。また、研究論文に個人を特定しうるような方法による論述や公表を行わないことを約束します。

研究者＿＿＿＿＿＿酒　井　郁　子＿＿＿＿＿＿

日付:令和　　年　　月　　日

資料 7

「GRIP プログラムの教育評価に関する研究」

研究協力 同意書

(研究２ インタビュー調査)

研究協力に同意していただける方は下記に記入し、GRIPのGoogle Space 上の BOX にご提出ください。なお、インタビューにご協力いただける方へは、インタビュー前に誓約書をお渡し、改めてご意向をご確認した上で同意書にご署名をいただきます。

****

私は、「**GRIP プログラムの教育評価に関する研究**」について文書による説明を受け、研究の目的・内容・方法・期待される利益および起こりうる不利益などについて説明を受け、理解しました。

そこで、私の自由意思にもとづいて、この研究に協力し、インタビューを実施することに同意します。

参加者(記名)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

日付:令和　　年　　月　　日

インタビューにご協力いただける方は、下の欄にご連絡先をお書き下さい。インタビューの日程調整と、公表する前に協力者の方に閲覧していただく際の連絡のためであり、それ以外の目的には使用いたしません。

Email＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

資料 8

学習体験の構造化用《インタビューガイド》

このインタビューでは、GRIPでのみなさんが体験したことやそのときの考えを伺います。目的は、プログラムの評価と、授業やプログラムの改善を行う際の基礎資料を得ることです。

インタビューは成績評価とは無関係です。みなさんの人権やプライバシーを保護し、協力の有無やお話された内容が成績に影響しないことを約束します。

参加は自由です。途中でやめたくなった場合、そこで終了することも可能です。終了後にデータやその一部を使ってほしくないと考えが変わったときは、6ヶ月以内にご連絡いただけましたらデータを削除します。

ここまでで質問や心配なことはありますか？（ある場合は回答。ない場合は次に進む。）

では、これから録音を開始します。よろしいでしょうか。（許可を得た場合は録音開始）

1．まず、今回GRIPに参加したきっかけを教えてください。

・他の留学プログラムもある中で、GRIPを選択したのはなぜですか？
・GRIP参加前に、他学部（他研究科）と連携・協働して学習やプロジェクトを進めた経験はどれくらいありましたか？
・GRIP参加前に、国内外への社会問題への関心はどれくらいありましたか？
・GRIP参加前に、異なる文化や価値観に触れた経験はどれくらいありましたか？
・GRIPに期待していたことはありますか？

2．事前学習についてお聞きします。

・事前学習の中で印象に残っていることはありますか？
・なぜその出来事があなたにとって強く印象に残ったのだと思いますか？（この2点を深く聴く）
・他に印象に残っていることはありますか？（なくなるまで繰り返し）

3．現地演習についてお聞きします。

・現地演習の中で印象に残っていることはありますか？
・なぜその出来事があなたにとって強く印象に残ったのだと思いますか？（この2点を深く聴く）
・他に印象に残っていることはありますか？（なくなるまで繰り返し）

4．成果発表会についてお聞きします。

・成果発表会やその準備の中で印象に残っていることはありますか？
・なぜその出来事があなたにとって強く印象に残ったのだと思いますか？（この2点を深く聴く）
・他に印象に残っていることはありますか？（なくなるまで繰り返し）

5．あなたの考えについてお聞きします。

1）他学部（研究科）と連携・協働して学習やプロジェクトを進めること対する考え方や態度は、GRIPを通して変化したと思いますか?
・どのように変化したと思いますか？
・変化のきっかけとなったことはありますか？

2）国内外の社会問題に対する考え方や態度は、GRIPを通して変化したと思いますか?
・どのように変化したと思いますか？
・変化のきっかけとなったことはありますか？

3）異なる文化や価値観に対する考え方や態度は、GRIPを通して変化したと思いますか?
・どのように変化したと思いますか？
・変化のきっかけとなったことはありますか？

6．最後に、GRIP全体についての感想や、今後改善して欲しいことを教えてください。

資料 9

測定尺度項目一覧

専門職連携実践能力

King et al. (2016). Refinement of the Interprofessional Socialization and Valuing Scale (ISVS-21) and Development of 9-Item Equivalent Versions.pdf

6 I am aware of my preconceived ideas when entering into team discussions.
7 I have a better appreciation for using a common language across the health professionals in a team.
9 I have gained an enhanced awareness of my own role on a team.
10 I am able to share and exchange ideas in a team discussion.
11 I have gained an enhanced perception of myself as someone who engages in interprofessional practice.
12 I feel comfortable being the leader in a team situation.
13 I feel comfortable in speaking out within the team when others are not keeping the best interests of the client in mind.
16 I feel comfortable in describing my professional role to another team member.
17 I have a better appreciation for the value in sharing research evidence across different health professional disciplines in a team.
19 I am able to negotiate more openly with others within a team.
21 I have gained an enhanced awareness of roles of other professionals on a team.
24 I am comfortable engaging in shared decision making with clients.
25 I feel comfortable in accepting responsibility delegated to me within a team.
26 I have gained a better understanding of the client's involvement in decision making around their care.
27 I feel comfortable clarifying misconceptions with other members of the team about the role of someone in my profession.
28 I have gained greater appreciation of the importance of a team approach.
29 I feel able to act as a fully collaborative member of the team.
30 I feel comfortable initiating discussions about sharing responsibility for client care.
32 I am comfortable in sharing decision making with other professionals on a team.
33 I have gained more realistic expectations of other professionals on a team.
34 I have gained an appreciation for the benefits in

問題解決能力

佐藤ほか.(2006).SocialProblem-SolvingInventory-Revised(SPSI-R)日本語版の作成と信頼性・妥当性の検討.pdf

Ⅲ合理的問題解決(RPS:α=.92)

(1)問題の定義と公式化(PDF:α=.80)

11　解決すべき問題を抱えている時は、状況を分析し、どのような障害物が自分の望みの達成を妨げているのかを明らかにしようとする

29　解決しなければならない問題が起こった時は、まず最初に、その問題に関するできるだけ多くの事実を手に入れようとする

33　問題を解決しようとする前に、自分の達成したい具体的な目標を設定する

44　解決しなければならない問題が起こった時は、自分の周りのどのような要因や状況がその原因となっているかを調べる

49　問題を理解するのが困難な時は、問題を明らかにするために役立つ、より明確で具体的な情報を手に入れようとする

(2)さまざまな解決法の案出(GAS:α=.77)

5　問題を解決しようとしている時は、しばしば異なった解決策を考え、それらのいくつかを組み合わせて良い解決策を生み出そうとする

20　問題を解決しようと試みる時は、創造的になり、新しい解決策や独自の解決策を考え出そうとする

39　問題を解決しようとしている時は、もうそれ以上アイデアを思いつけなくなるまで、できるだけ多くの選択肢を考える

47　問題を解決しようとしている時は、自分の目標が何であるのかを常に気にかけている

48　問題を解決しようと試みる時は、できるだけ多くの違った角度から問題に取り組む

(3)意志決定(DM:α=.72)

18　決断しなければならない時は、それぞれの選択肢のうまくいった場合とうまくいかなかった場合の結果を予想しようとする

24　決断する時は、それぞれの選択肢の直後の結果と、長い目で見た結果の、両方を考慮する

40　決断しなければならない時は、それぞれの解決策の結果をよく考え、互いに照らし合わせて比較する

43　決断しなければならない時は、それぞれの選択肢が自分の気分にどのような影響を与えるか考慮する

46　決断する時は、選択肢を判断し、比較するために体系化された方法を用いる

(4)解決法の実行と検証(SIV:α;.77)

25　解決策を実行した後で、何が良くて何が悪かったのか分析する

26　解決策を実行した後で、自分の気分を調べ、どのくらい良くなっているか評価する

27　問題に対する解決策を実行する前に、自分の成功のチャンスを増やすため、その解決策を復習する

35　問題に対する自分の解決策の結果に不満足な時は、何が悪かったのかを発見し、再び試してみる

37　問題に対する解決策を実行した後で、状況がどのくらい良くなっているかを、できるだけ注意深く評価しようとする

2

Cultural Competency

以下、BEVIのプログラムサイト（https://jp.thebevi.com/about/scales/）より

Language English

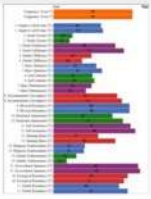
BEVI

トップ　BEVIとは　費用/サポート　ログイン　コンタクト

BEVIのすべてのバージョンは、次の相互に関連する４つの質問項目から構成されています:

1. 包括的な人口統計・背景情報に関する質問項目（プロジェクトに合わせて変更可能）
2. 生い立ちまた経歴に関する質問項目
3. 2つの妥当性と17の「尺度」に関する質問項目
4. 3つの質的な「経験に対する内省的」質問項目

妥当性の尺度には、一貫性と適合性が含まれています。17の尺度は次の7つの領域に分類されます:



I. 妥当性の尺度 Validity Scales

一貫性 *Consistency*: 類似又は同一の内容を測っているが表現の異なる質問項目に対する、回答の一貫性（「人は常に変化する」、「人は実際には変わらない」など）(e.g., "People change all the time." "People don't really change.")

適合性 *Congruency*: 統計的に推定できる回答パターンとの、回答の一致の程度（「温かさや愛情を真に欲している」、「自分の感情を深刻に受け止めている」、など）(e.g., "I have real needs for warmth and affection." "I take my own feelings very seriously.")

II. 形成的因子 Formative Variables

1. 人生における負の出来事 *Negative Life Events*: 困難な子ども時代、問題を抱えていた両親、人生における葛藤/苦闘、多くの後悔（「家族の1人または複数との衝突が多い」、「家族が金銭的な問題を抱えていた」など）(e.g., "I have had a lot of conflict with one or more members of my family." "My family had a lot of problems with money.")

III. 中核的欲求の充足 Fulfillment of Core Needs

2. 欲求の抑圧 *Needs Closure*: 不幸な生い立ち/生活史、いさかいの多い/不安定な家族構造、物事が起こる原因・状態の原因についてのステレオタイプの思考/筋が通らない説明（「素晴らしい子ども時代だった」、「他よりも運のいい数字がある」など）(e.g., "I had a wonderful childhood." "Some numbers are luckier than others.")

3. 欲求の充足 *Needs Fulfillment*: 経験・欲求・感情に対してオープン、自分・他者・より広い世界に対する気遣い/思いやり（「子どもの早期教育プログラムにもっとお金を費やすべきだ」、「自分が何者なのかを考えることが好きだ」など）(e.g., "We should spend more money on early education programs for children." "I like to think about who I am.")

4. アイデンティティの拡散 *Identity Diffusion*: アイデンティティの危機、結婚生活/家族生活についての否定的宿命論、自分や将来に対する「否定的な」感情（「つらいアイデンティティの危機を経験している」、「男性が結婚に忠実であることを期待しているが、実際はそうはならない」など）(e.g., "I have gone through a painful identity crisis." "Even though we expect them to be, men are not really built to be faithful in marriage.")

IV. 不均衡の許容 Tolerance of Disequilibrium

5. 基本的な開放性 *Basic Openness*: 基本的な思考、感情、欲求に対してオープンかつ率直（「自分というものを常に良いと思っているわけではない」、「自分の人生は孤独だと感じている」など）(e.g., "I don't always feel good about who I am." "I have felt lonely in my life.")

6. 自分に対する確信 *Self Certitude*: 強い意志、困難に対し言い訳することが我慢できない、ポジティブ思考を強調する、深い分析を好まない（「もっと頑張れば、ほとんどの問題は克服できる」、「ルールに従ってやれば、うまくやれる」など）(e.g., "You can overcome almost any problem if you just try harder." "If you play by the rules, you get along fine.")

V. 批判的思考 Critical Thinking

7. 基本的な決定論 *Basic Determinism*: 差異/行動について簡潔な説明を好む、人は変わらない/強者が生き残ると信じている、苦労の多い生活史（「エイズは神の怒りの証だ」、「強者が生き残るのは当然だ」など）(e.g., "AIDS may well be a sign of God's anger." "It's only natural that the strong will survive.")

8. 社会・情動の理解 *Socioemotional Convergence*: 自己、他者、より広い世界を認識している/オープンである、思慮深く、実用主義、意思が固い、自立の必要性を認める一方で弱者を気遣うなど世界を白黒では捉えない（「不幸な人を救うためにもっと何かしなければならない」、「自分の責任を果たしていない人が多すぎる」など）(e.g., "We should do more to help those who are less fortunate." "Too many people don't meet their responsibilities.")

VI. 自己の理解 Self Access

9. **身体への共鳴** *Physical Resonance*: 身体的欲求/感情の受容、経験主義、人間性/進化の影響を評価する（「私は自由な精神の持ち主だ」、「私の体は私の感情に敏感だ」など）(e.g., "I am a free spirit." My body is very sensitive to what I feel.")

10. 感情の調整 *Emotional Attunement*: **感情に動かされやすい、傷つきやすい、社交的、愛情を求めている、親和的、愛情表現に価値を置く、家族関係が親密（「感情を表すのは気にならない」、「弱さは美徳でありうる」など）**(e.g., "I don't mind displays of emotion." "Weakness can be a virtue.")

11. 自己認識 *Self Awareness*: 内省的、自己の複雑性を受け入れる、人の経験/状態を気遣う、難しい思考/感情を許容する（「常に自分をよりよく理解しようと努めている」、「取り組むべき課題を抱えている」など）(e.g., "I am always trying to understand myself better." "I have problems that I need to work on.").

12. 意味の探求 *Meaning Quest*: 意味を模索する、人生にバランスを求める、耐性がある/根気強い、感受性が高い、弱者への思いやり（「人生の意味についてよく考える」、「人生のバランス感覚をもっとよくしたい」など）(e.g., "I think a lot about the meaning of life." "I want to find a better sense of balance in my life.").

VII. 他者の理解 Other Access

13. 宗教的伝統主義 *Religious Traditionalism*: **宗教心があつい**、自己/行動/出来事を神/霊的な力によるものと考える、「来世」を信じる（「宗教がなければ平和はないだろう」、「天国への道がある」など）(e.g., "Without religion there can be no peace." "There is one way to heaven.").

14. ジェンダー的伝統主義 *Gender Traditionalism*: 男性と女性はある型にはまるよう創られている、伝統的/単純なジェンダー観やジェンダーの役割を好む（「女性は男性より感情的だ」、「男性の役割とは、強くあることだ」など）(e.g., "Women are more emotional than men." "A man's role is to be strong.").

15. **社会文化的オープン性** *Sociocultural Openness*: 文化、経済、教育、環境、ジェンダー/国際関係、政治の分野におけるさまざまな行動、政策及び実践について進歩的/オープンである（「自分とは異なる文化を理解しようと努めるべきだ」、「わが国では、貧富の差が大きい」など）(e.g., "We should try to understand cultures that are different from our own." "There is too big a gap between the rich and poor in our country.").

VIII. 世界の理解 Global Access

16. 生態との共鳴 *Ecological Resonance*: 環境/持続可能性の問題に深く関与している。地球/自然界の将来を懸念している（「環境が心配だ」、「所有者が誰であろうとも、この土地を守らなければならない」など）(e.g., "I worry about our environment." "We should protect the land no matter who owns it.").

17. 世界との共鳴 *Global Resonance*: さまざまな個人、集団、言語、文化について学ぶこと/出会うことを努力している。グローバル社会への関与を望んでいる（「世界の出来事についてよく知っておくことが大切だ」、「自分とは大きく異なる人々の集団といることが快適だ」）(e.g., "It is important to be well informed about world events." "I am comfortable around groups of people who are very different from me.").

IX. 経験に対する内省的な質問項目

BEVIは、「混合メソッド」的な測定方法で、量的なもの（尺度）と質的なもの（自由回答）の双方を問い（Coates, Hanson, Samuel, Ashe, & Cozen, 2016; Cozen, Hanson, Poston, Jones, & Tabit, 2016など）、これらに基づく分析を行っています。BEVIには次の３つの質的な経験に対する内省的な質問項目が含まれており、これらにはテストの最後に記述形式で答えてもらいます。

- 国際的な学習体験の、どのような出来事・側面があなたに最も影響を与えましたか？また、それはなぜですか？
- **この経験の結果、あなた自身の「自己」や「アイデンティティ」（例えば、ジェンダー、民族性、性的指向、宗教的背景、政治的背景など）が、明確になりましたか？**
- **国際経験や異文化交流体験の結果、あなたは何を学びましたか？また、あなたはどのように変わりましたか？**

BEVIデータの解釈には多種のレポートが**利用可能で**、研究者やtBEVI管理者はグループのテスト結果を様々な方法で分析することができます（グループ内の差異を含む）。もっとも単純なレポートの一例として、各尺度についてグループの事前（T1）と事後（T2）の中央値の集計例を以下に示します。